

私の「人生会議」

武蔵国分寺公園クリニック 名郷直樹氏

「人生会議」の背景には様々な利害が渦巻いている。自分の最期は自分で決めたいという本人、多忙を極める救急医療と疲弊する医師、本当は早く死んでほしい家族、在宅で死んでくれると儲かる在宅医。一番丸く収まるのは、急に悪くなっても病院なんか行かなくていいよ、とみんなの意見が一致するときだが、その結論を導くためにある「人生会議」であっては困るし、そう簡単に事は進まない。

そもそもそれぞれの意見というのが、実はそれ自体が怪しい。その場においても怪しいし、時が経ったり、状況が変わったりするといくらでも変化する。だから重要なのは結論を出すことではなく、話し合いのプロセスだということで「人生会議」という言葉も生まれた。しかし、結論を先延ばしにしてただ話し合うだけというなら、会議そのものがいらぬのではないかという意見もある。

そこで「私自身」はどうかということになる。自分の最期は自分で決めたいという気持ちはない。そんなことは周囲の状況で変わるとしか言いようがない。救急医が忙しければ、後回しにしてもらってもいいし、ぼけたり寝たきりになる前に死んでほしいと家族が言うならそれでもいいし、信頼する在宅医が在宅で死ぬ方が儲かるならそれに協力するのも悪くない。自分自身で思うようになるのではなく、その場の状況で適当に決めてくれればよいと思う。それが自分の希望と言えれば希望だ。でもそんなことは重要ではないと思う。

私自身は、自分の最期を考えると、死ぬことの希望について考えたい。死なないと困るよね、というのは意外と多くの人考えていることだと思う。安楽死、自殺となるとまた困ってしまうが、どんな人も必ず死ぬので、とりあえず安楽死と自殺は取り上げなくても話はできる。生きたいと死にたいが両立するような、死ぬことの希望について語る「人生会議」、そんな人生会議であれば、私も参加してみたい気がする。皆さんはどうか。一緒に考えたい。よろしくお願いします。